

3 フランケンシュタインって誰？

フランケンシュタインと言うと、顔に縫い目のある怪物や人造人間を思い浮かべる人が多いのではないだろうか。現に学生にフランケンシュタインとは何かについて尋ねても、怪物的キャラクターを想像する傾向にある。しかし、フランケンシュタインは、メアリ・ウルストンクラフト・ゴドウィン・シェリー (Mary Wollstonecraft Godwin Shelley, 1797-1851) が執筆した小説『フランケンシュタイン』(Frankenstein; or, The Modern Prometheus, 1818) に登場する科学者の名前であり、科学者ヴィクター・フランケンシュタインの創造した人造人間は「怪物」(creature/monster) として登場する。『フランケンシュタイン』は、この怪物が人間社会になじめずに苦悩する悲劇である。北極探検隊のウォルトンが、北極海で科学者のフランケンシュタインを救助した時に聞いた話を、姉マーガレットに向けて書いた書簡体小説の形式になっている。

●『フランケンシュタイン』あらすじ

人間創造の研究をしていたヴィクターは、死体をつなぎ合わせるにより人体創造に成功する。しかし、美を追求して創造した人造人間は、美しさからかけ離れた醜悪な怪物であった。精神を病んだヴィクターは部屋に怪物を放置して故郷のジュネーブへ帰る。しかし、ヴィクターは弟が絞殺されたことを知り、その真相が、自らが創造した怪物にあることを悟り、また無実の召使が殺人犯として処刑されたことを知り、自らの罪に打ちひしがれる。一方、見捨てられた怪物も旅を続け、言語や人間愛について学ぶものの、醜さ故に人間に受け入れられず、孤独と戦い、絶望の淵をさまよう。ヴィクターは再び家を離れてアルプスへ向かうも、怪物が現れてもう一体の女性の人造人間を創るよう迫る。ヴィクターは怪物との約束を果たそうとするが、嫌悪感から失敗に終わる。怒り狂った怪物は更なる復讐劇へと駆り立てられ、ヴィクターの親友や愛するエリザベスを殺してしまう。ヴィクターの父まで心労から死んでしまう。怪物を追跡して北極までたどり着いた時、ヴィクターは行く手を阻まれ、航海家ウォルトンに救助されるが、怪物を滅ぼすことを達成できずに命果てる。現れた怪物は、「全人類がおれに対して罪をおかしているというのに、おれひとりが犯罪者とみなされるのか」と叫び、氷山の海に消えていく。

●『フランケンシュタイン』解説

1816年の夏、18歳のメアリ・シェリーが将来の夫となる詩人のパーシー・ビッシュ・シェリー（Percy Bysshe Shelley, 1792-1822）らとともにジュネーブ郊外に滞在していた折、ジョージ・ゴードン・バイロン（George Gordon Byron, 6th Baron Byron, 1788-1824）が、皆で一つずつ怪奇小説を書こうと提案したことから執筆された怪奇小説である。

19世紀初頭はまだクローン人間の発想など全くない時代であったが、人造人間を題材にし、生命倫理について追求した作品となっている。醜さ故に誰からも受け入れてもらえない怪物だが、その怪物は知性も優しさも兼ね備えていた。科学者のエゴから生まれた「普通の人間」とは異なる外見を持った怪物の悲劇を通し、生命の重さや人間の身勝手さが描かれている。

小説『フランケンシュタイン』を題材とした映画はこれまで数多く制作されてきた。小説に忠実ではない作品も多く、改作を含めると、35作品以上ある。最初の作品とされる1910年にエジソン・スタジオで制作された「フランケンシュタイン」は16分間のアメリカ映画（YouTubeで閲覧可）であるが、怪物はフランケンシュタインの創造した悪の心であることが明らかにされる。続いて1931年にジェイムズ・ホエール（James Whale, 1889-1957）監督により映画化され、以後、多くの監督がたびたび映画化している。

●作者メアリ・シェリー

メアリ・シェリーの父は社会思想家ウィリアム・ゴドウィン（William Godwin, 1756-1836）、母は女性拡張論者のメアリ・ウルストンクラフト（Mary Wollstonecraft, 1759-1797）で、夫はイギリス・ロマン主義を代表する詩人のシェリーである。

メアリ・シェリーの作品には、他に『最後の人間』（*The Last Man*, 1826）がある。21世紀末を舞台にした長編小説で、メアリ・シェリーがナポリで発見したシビュラの書の断片を一人称ストーリーにしたものである。謎の疫病が猛威を振るう中、人々はイギリスからフランス、スイス、イタリアへと移動するも、最終的にライオネル・ヴァーニーだけが生き残り、最後の人間となる。そのライオネルにより書かれた記録が偶然発見された、という設定である。主人公のライオネルのモデルは著者メアリ・シェリーであり、自伝的小説でもある。世界的に新型コロナウイルス感染症（COVID-19）が猛威を振っている昨今であるが、人類はいつの時代も伝染病と戦い、歴史は繰り返されていることを再認識させられる一冊である。

（遠藤 花子）